

重要文化財旧大社駅保存修理事業について

重要文化財「旧大社駅本屋」は、前回の屋根の葺き替え修理から約40年が経過し、屋根の破損のほか木部等の破損も顕著になってきたことから、保存修理事業に着手しています。令和2年度から解体工事を行い、本年度からは組立・耐震補強工事に着手します。

1. 保存修理事業について

- ・重要文化財旧大社駅保存修理（仮設・解体）工事〔令和2年12月18日契約議決〕
工期：令和2年12月22日～令和7年12月20日（解体工事は概ね終了）
- ・重要文化財旧大社駅保存修理（組立・補強）工事〔議案「議第6号」として提出〕
工期：令和4年7月（予定）～令和7年12月20日

2. 組立・補強工事について

解体工事着手前の旧大社駅は、重要文化財に指定された平成16年当時の状態です。平成28年6月に策定した「旧大社駅保存活用計画」では、建設された大正13年当時の姿に復元し保存することを前提としていますが、当時の詳細な資料は見つかっていません。このため、今議会で議決いただいた「重要文化財旧大社駅保存修理（組立・補強）工事」は、旧大社駅が重要文化財に指定された平成16年当時の姿に復元する設計としています。

3. 組立・補強工事に関する文化庁との協議状況について

こうした中、昨年10月、京都鉄道博物館で昭和初期頃撮影の駅構内の写真が見つかり、当時の構内北側の壁の造り、照明器具や出札室（切符売場）の窓の鉄格子の状態が確認できました。

また、昭和10年には全国でも稀である貴賓室が造られており、当時は駅本屋としての価値が最も高まった時期であったと考えられます。

これらのことから、本年4月の文化庁による現地指導においては、見つかった写真を基に、建設された大正13年に近い昭和10年当時の姿に復元するよう指導があり、本年5月には文化庁に対し手続き（現状変更等許可申請）を行ったところです。

【主な変更箇所】照明器具（シャンデリア）及び出札室の窓の鉄格子の新規作成・設置等

4. 今後の予定について

文化庁から現状変更等の承認が得られた場合、昭和10年当時の姿に復元するため、工事内容の変更に伴う工事費の増額が見込まれます。

現状変更等の手続きに見通しが立った段階で、継続費及び工事請負契約（組立・補強）の変更について、あらためて議案を提出する予定です。

※参考：現時点での全体事業費（設計監理業務委託料を含む）

980,000千円（令和2年度～令和7年度継続費）

【財源】国補助（補助率1/2） 490,000千円

県補助（補助率1/6） 163,331千円

市負担（1/3） 326,669千円

〔内訳〕一般補助施設整備等事業債293,900千円

（充当率90%、交付税措置率30%）

一般財源 32,769千円